

万が一火災が発生したら

- ① 火花や煙が激しく噴出している場合は、近寄らない
- ② 火花や煙の勢いが収まったら、大量の水や消火器で消火する
- ③ 消火後、安全に配慮し可能であれば水没させる



Point 1

大量の水をかける



Point 2

水没させる



素手で触るのはやめよう！

119番通報は安全な場所から通報しよう！



誤った廃棄方法でも火災が・・・！

住宅の中だけではなく、誤った廃棄方法によるごみ処理中の火災も急増しています。不要品を処分する際は製品の取扱い説明書をよく確認した上で、お住まいの自治体の廃棄方法に従い廃棄してください。



可燃ごみ回収中に、ごみ袋から煙！！



ごみ袋からバッテリーが！？

問合せ先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4196

※ 本リーフレットにおける火災統計は、東京消防庁管内の数値を集計しています。

令和7年7月発行



STOP!

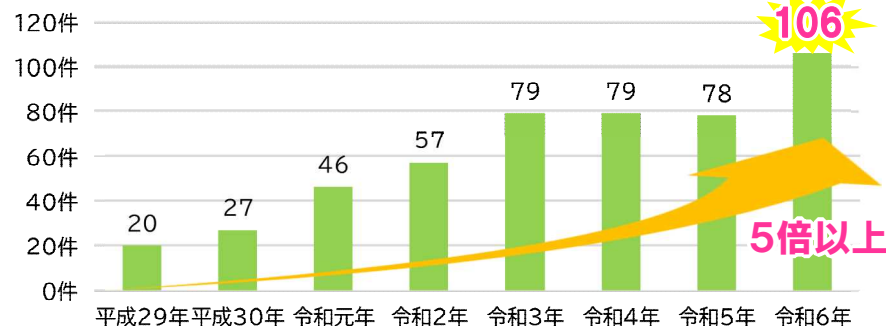
STOP! 住宅防火シリーズ⑦ 火災から大切な命を守ろう

近年、急増！取扱いに要注意

リチウムイオン電池関連火災とは、リチウムイオン電池を搭載した製品(差し込みプラグ及び器具コードを除く)から出火した火災のことをいいます。

- リチウムイオン電池に起因する火災が、近年急増しています。令和6年中は、106件発生し、過去最多となっています。
- 取扱い方法をよく確認し、異常を感じた場合は、すぐに使用を中止しましょう。

住宅火災におけるリチウムイオン電池関連火災件数
(令和6年は速報値)



リチウムイオン電池
関連火災

東京消防庁

身近にあるリチウムイオン電池搭載製品

住宅火災における
製品用途別発生状況(令和6年中速報値)

モバイルバッテリー	35件
携帯電話機	10件
コードレス掃除機	9件
ポータブル電源	8件
電動アシスト付自転車	6件
タブレット	5件
ワイヤレスイヤホン	5件
ノートパソコン	3件
電動工具	3件
ファン付き作業着等バッテリー	2件
その他	20件
計	106件

発生が1件のものは「その他」に分類し、携帯扇風機、コードレスヘアアイロン、ビデオカメラ、音楽プレイヤーなどが含まれています。



⚠️ こんなときは危険 ⚠️ 今すぐチェック!

- 熱のこもりやすい場所で使用している
- 膨らみ、変形している
- 過去に落下させたことがある
- 充電中や使用中に発熱することがある
- 充電できないなどの不具合がある

一つでも当てはまる場合は火災の危険が・・・!

【事例1】「充電中のモバイルバッテリーから出火した火災」

突然、住宅用火災警報器が鳴動し部屋を確認したところ、布団の上で充電していたモバイルバッテリーから火が出ているのを発見した。

【事例2】「外部からの衝撃により出火した火災」

テーブルに置いてあったスマートフォンに肘が当たり、床に落下した直後、出火した。



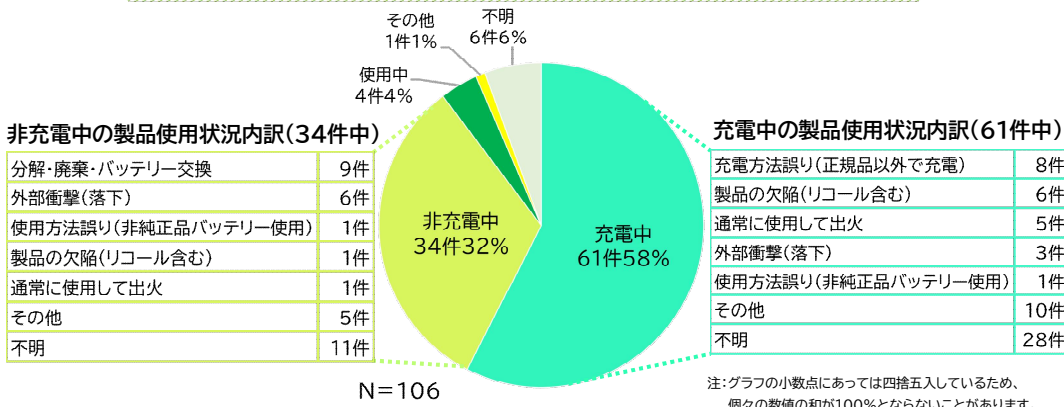
充電中に多く発生! ~外部衝撃にも要注意!~

リチウムイオン電池関連火災(令和6年中)のうち、約6割が充電中に発生しています。最も多いのは「充電方法誤り(正規品以外で充電)」です。

非充電中では、「分解・廃棄・バッテリー交換」により多く発生しています。

また、「外部衝撃(落下)」によるものは、充電の有無にかかわらず発生しています。

住宅火災における出火時の状況内訳(令和6年中速報値)

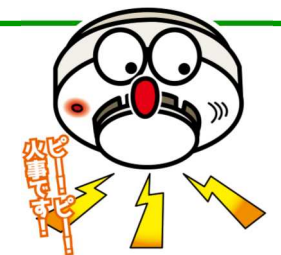


火災を防ぐ6つのポイント

- 1 製品に衝撃を与えない、むやみに分解しない
- 2 整理整頓された場所で充電する
- 3 製造事業者が指定する充電器やバッテリーを使用する
- 4 膨張、充電できない、バッテリーの減りが早くなった、充電中に熱くなるなど異常がある場合は使用をやめ、製造業者や販売店に相談する
- 5 熱のこもりやすい場所での使用は控える
- 6 万が一の被害に備え不燃性のケースなどに収納する

住宅用火災警報器を備えましょう

住宅用火災警報器は、煙や熱を感知して火災が発生したことをいち早く知らせ、素早い避難や有効な初期消火、早期通報に繋げることができます。適切に設置・維持管理を行い、大切な生命・財産を守りましょう。



注: グラフの小数点にあっては四捨五入しているため、個々の数値の和が100%とならないことがあります。